

教育部アンケート集計結果

平成24年末に全士会員を対象に行ったアンケートの集計結果をご報告いたします。たくさんのご意見をいただきありがとうございました。教育部では、アンケート結果から士会員の皆様のご期待に添えるような研修会を企画していきたいと思っております。

ご協力をいただきありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

<目的>

アンケートの目的は、よりよい研修会を提供するため士会員の教育に関するニーズ調査です。教育についての問題やニーズは、個人の経験や所属において様々あると思われます。そこで、今回のアンケートは、それぞれの困っていることや悩んでいること、希望する研修会のテーマを把握することを目的としております。

<方法>

アンケートの内容は、①教育について困っていることや悩んでいることと研修会を希望するテーマ、②疾患別のリハについて、対象とすることが多い症例とそれぞれの困っていることと希望するテーマを挙げていただきました。

アンケートの分析は、自由記載をキーワードで分類し、所属施設、所属人数、経験年数の3つの属性から分析を行いました。疾患別のリハについては、少数の意見もあったため分析は行わず、困っていることと希望のテーマをリスト化しました。

<結果>

1) アンケート期間：平成24年12月1日～同年12月28日

2) 回収率

配布数	632件
回収	422件
回収率	66.8%

3) 属性

■男性 ■女性



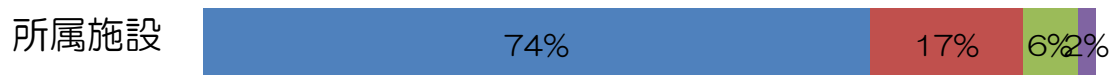
■芹内 ■最北 ■村山 ■置賜



■3年以下 ■3～10年 ■11～20年 ■21年以上



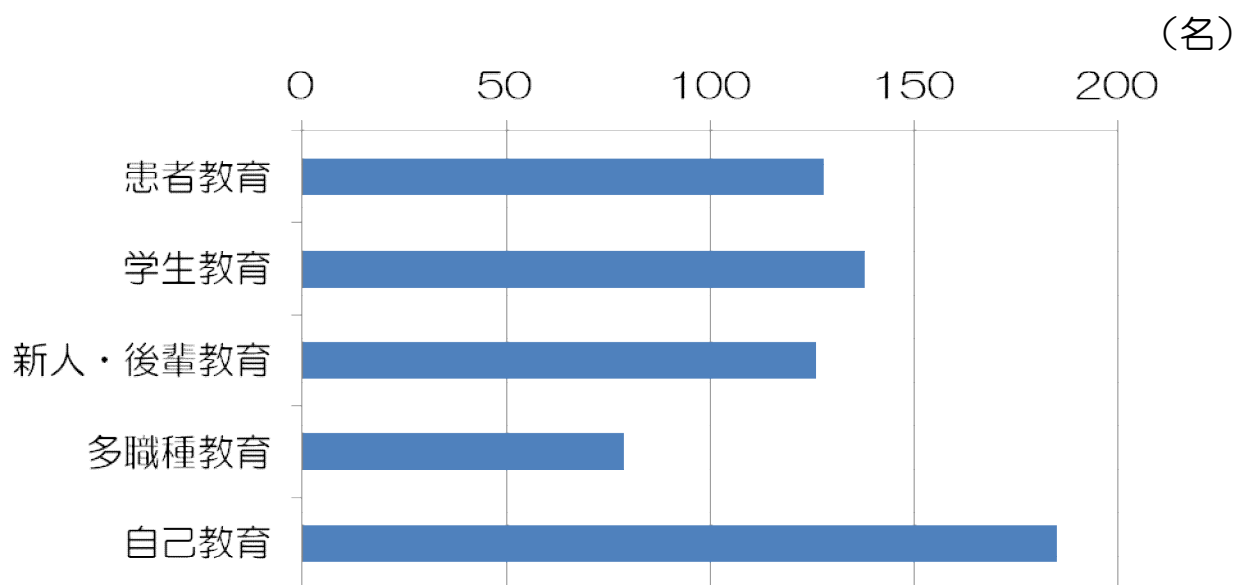
■病院 ■施設 ■訪問 ■養成校



■1名 ■2～3名 ■4～6名 ■7～10名 ■11名以上



4) 教育について困っていること悩んでいることを選んでください。



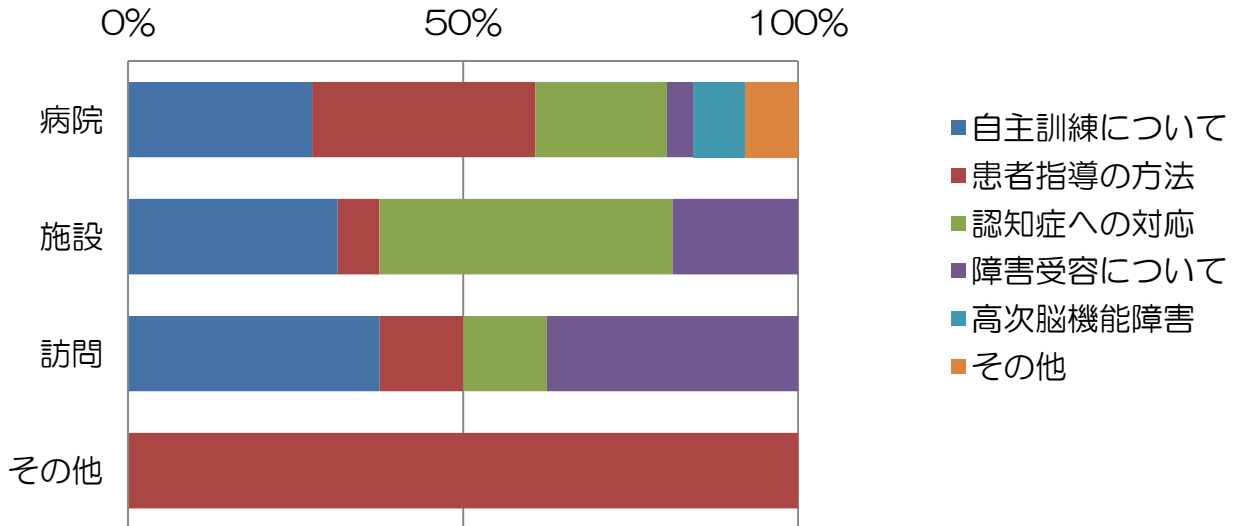
<自由記載の分類>

1. 患者教育について 回答数80名

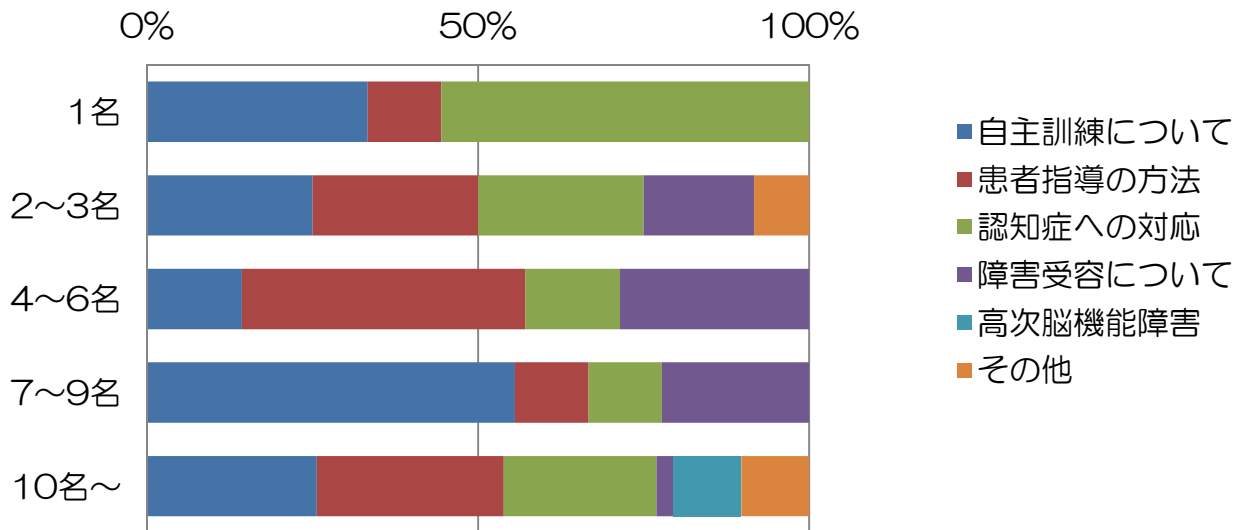
悩んでいる内容	人数	備考
No.1 自主訓練について	23	内容や動機づけの方法について
No.2 患者指導の方法	19	高齢者（単独世帯）への指導や説明技術について
No.3 認知症への対応	19	
No.4 障害受容について	7	
No.5 高次脳機能障害	5	
No.6 その他	7	拒否や依存のある方への対応、他職種連携

希望のテーマ	人数	備考
No.1 指導に関わるコミュニケーションスキル		
No.2 心理学（動機づけ）		
No.3 糖尿病指導		
No.4		
No.5		
No.6		

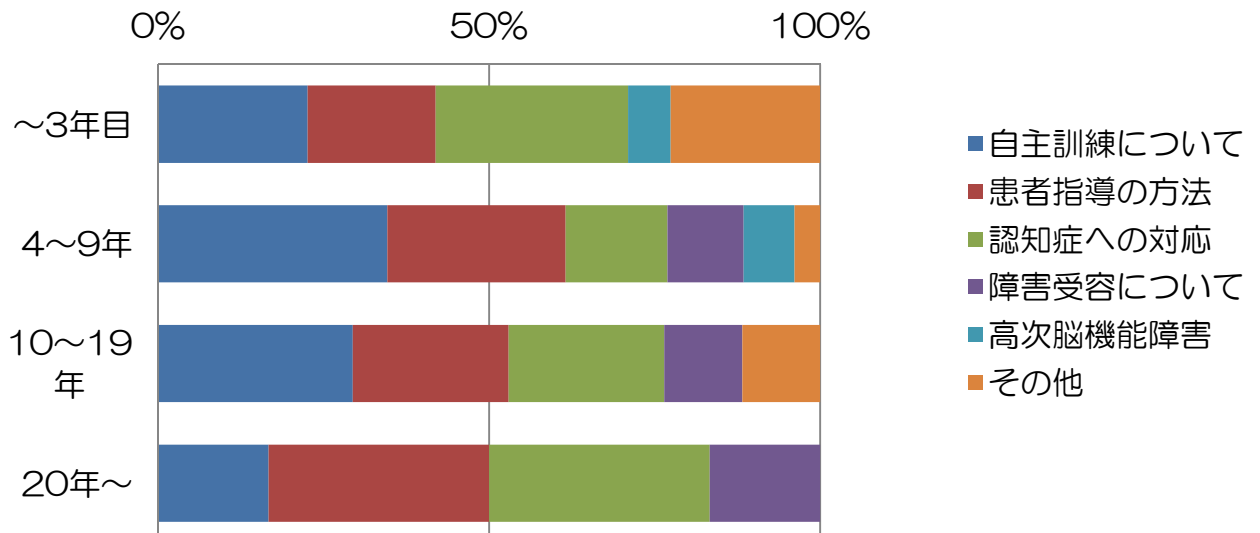
所属別



所属人数別



経験年数別

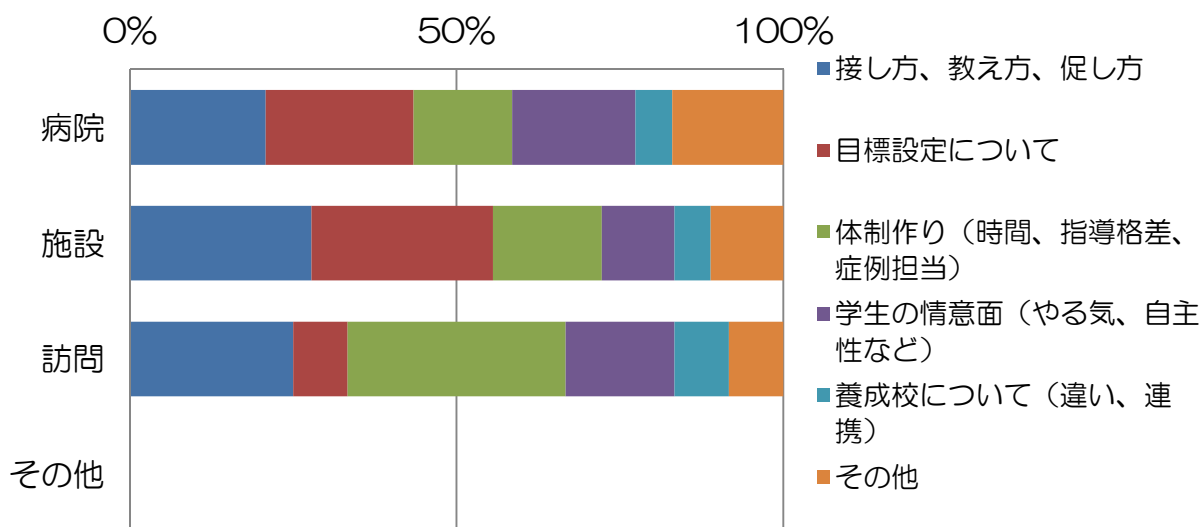


2. 学生教育について 回答数70名

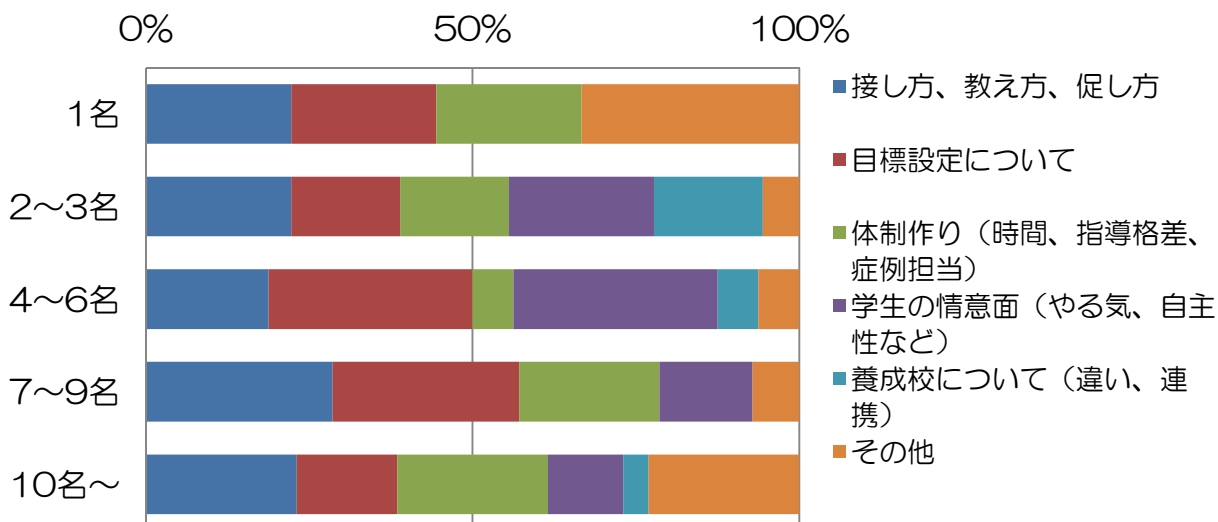
悩んでいる内容	人数	備考
No.1 接し方、教え方、促し方	19	
No.2 目標設定について	18	
No.3 体制作り（時間、指導格差、症例担当）	15	
No.4 学生の情意面（やる気、自主性など）	14	
No.5 養成校について（違い、連携）	4	
No.6 その他		

希望のテーマ	人数	備考
No.1 実習マニュアル（システム）	2	
No.2 最新の教育事情	2	
No.3 クラークシップ	2	
No.4 外部講師	1	
No.5		
No.6		

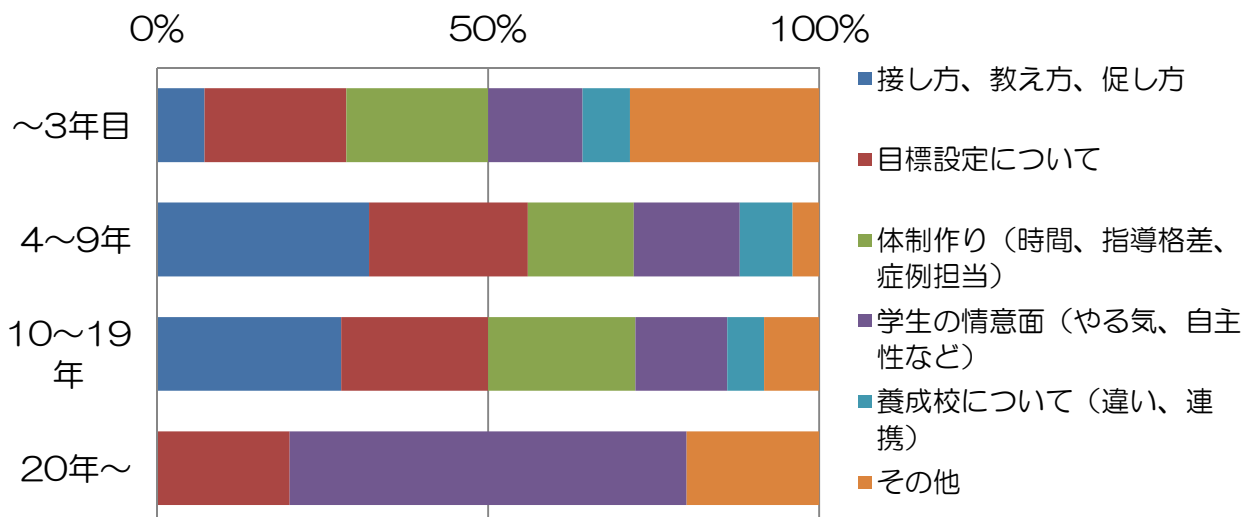
所属別



所属人数別



経験年数別

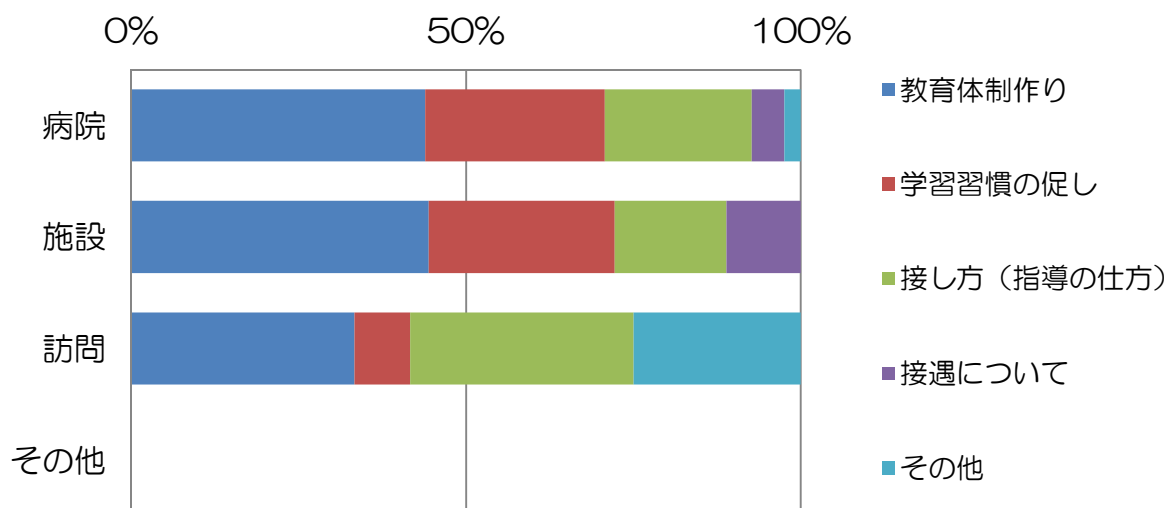


3. 新人教育について 回答数61名

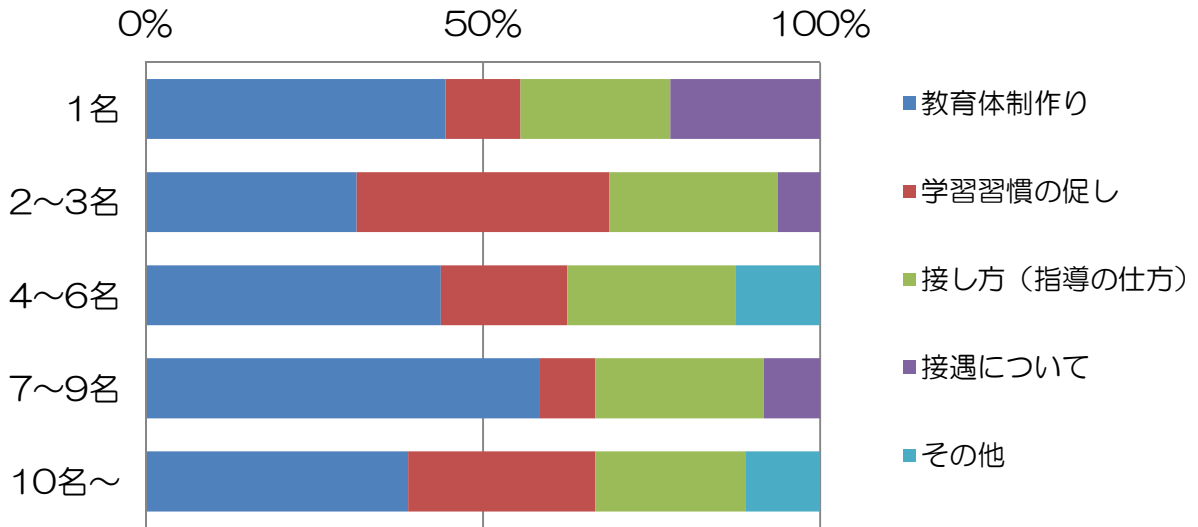
悩んでいる内容	人数	備考
No.1 教育体制作り	30	時間不足、目標設定、指導者によるバラつき、方法
No.2 学習習慣の促し	16	自主性が低い、探究心が低い
No.3 接し方 (指導の仕方)	11	コミュニケーション方法、コーチング、指導方法
No.4 接遇について	4	
No.5 その他		
No.6		

希望のテーマ	人数	備考
No.1 教育方法の基礎	7	指導方法、動機づけの方法、自主性の育て方
No.2 教育システム	3	新人指導のマニュアル
No.3 マナー指導	1	
No.4 吸引やBLS	1	
No.5		
No.6		

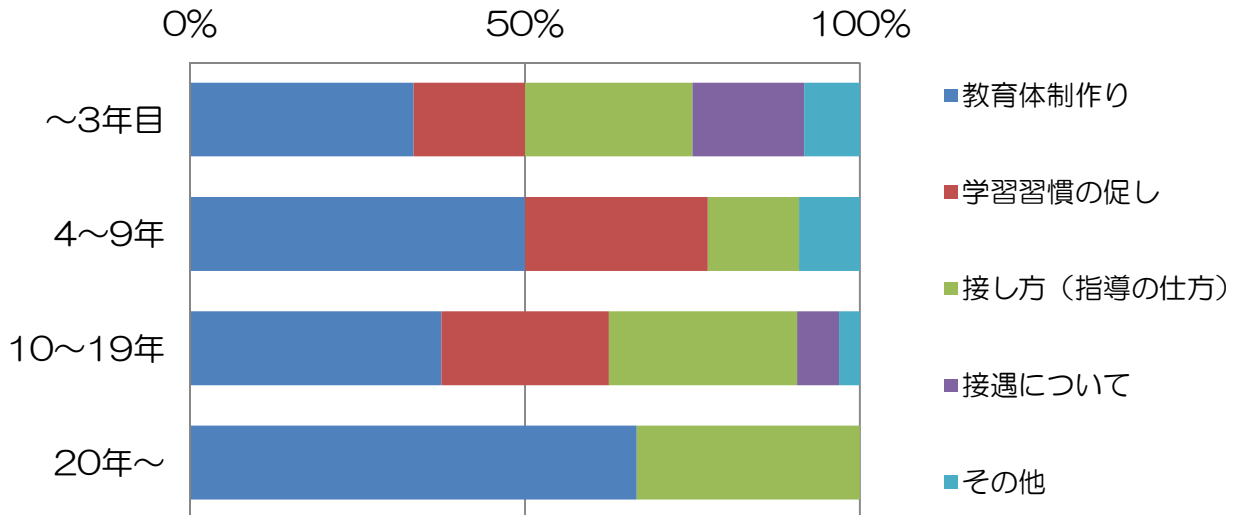
所属別



所属人数別



経験年数別

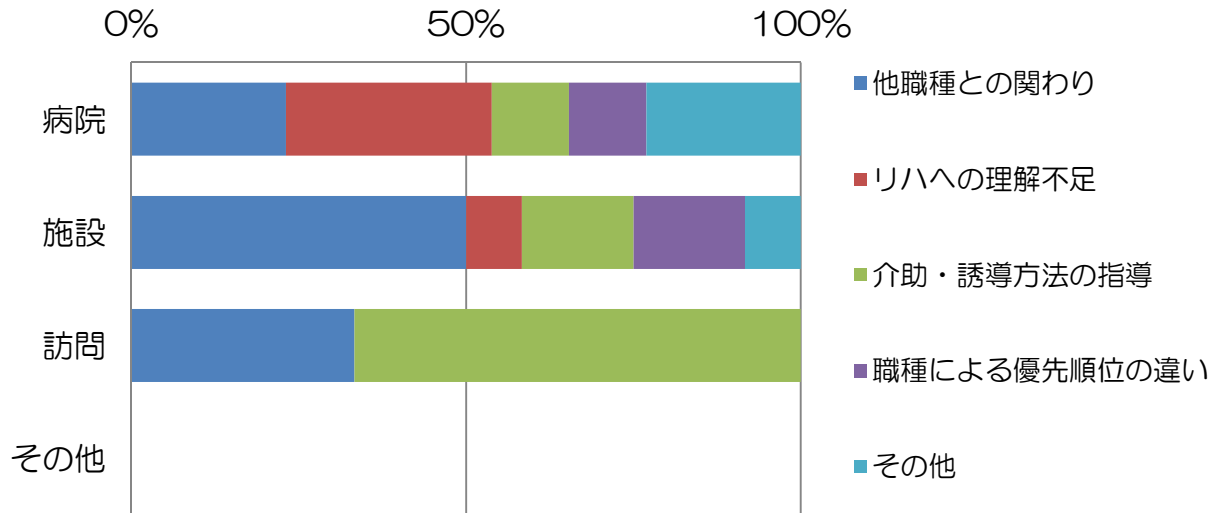


4. 他職種教育について 回答数41名

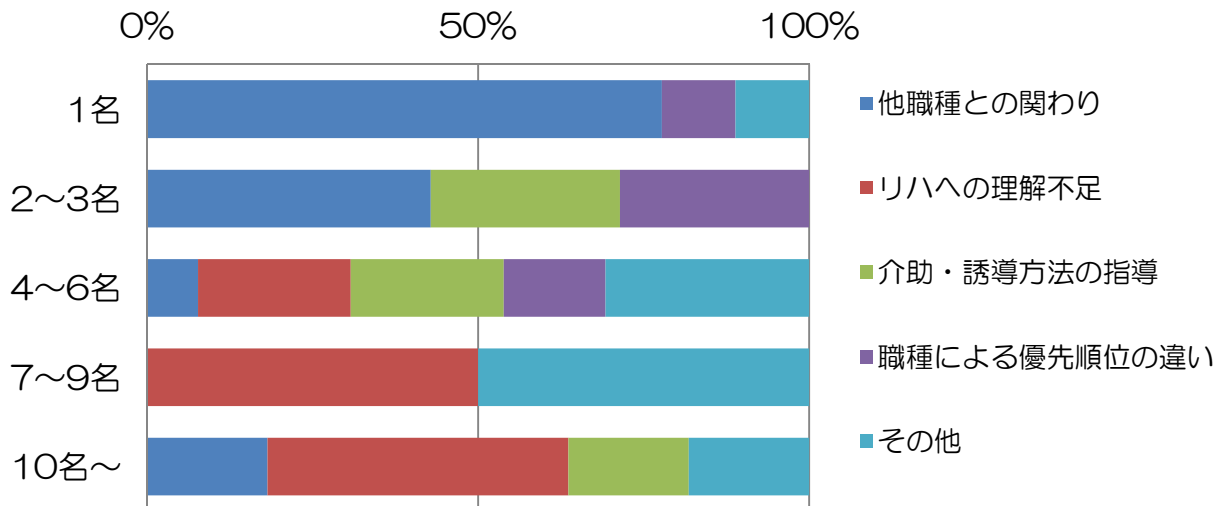
悩んでいる内容	人数	備考
No.1 他職種との関わり	13	連携、情報共有、コミュニケーション
No.2 リハへの理解不足	9	
No.3 介助・誘導方法の指導	7	
No.4 職種による優先順位の違い	5	
No.5 その他	7	
No.6		

希望のテーマ	人数	備考
No.1 他職種合同の勉強会	3	
No.2 各ブロックごとの活動を	1	
No.3 情報共有	1	
No.4 理学療法の効果を他職種へ	1	
No.5 看護・介護領域の知識	1	
No.6 コーチング	1	

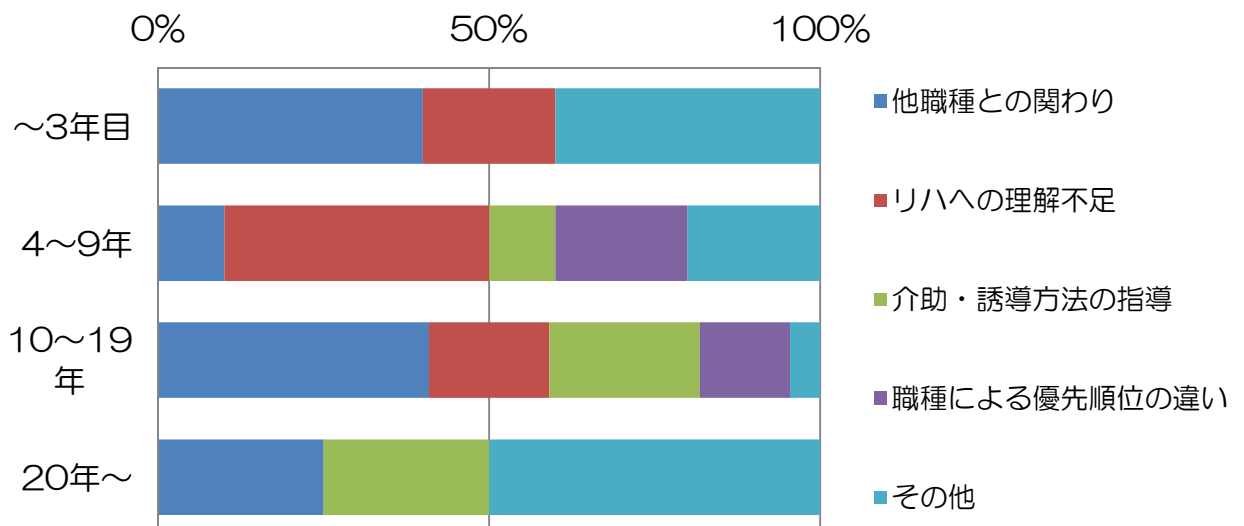
所属別



所属人数別



経験年数別

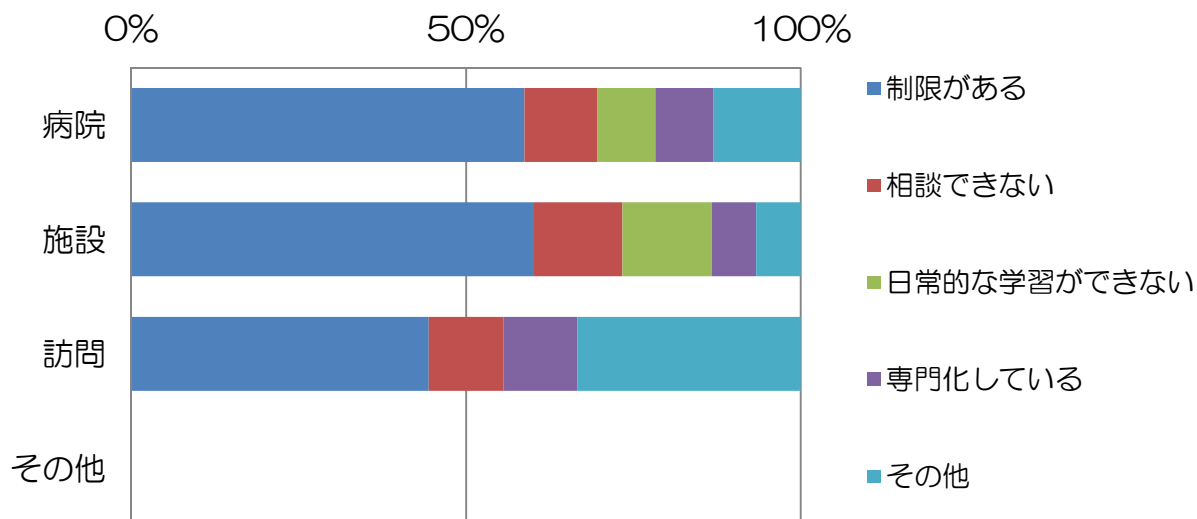


5. 自己教育について 回答数65名

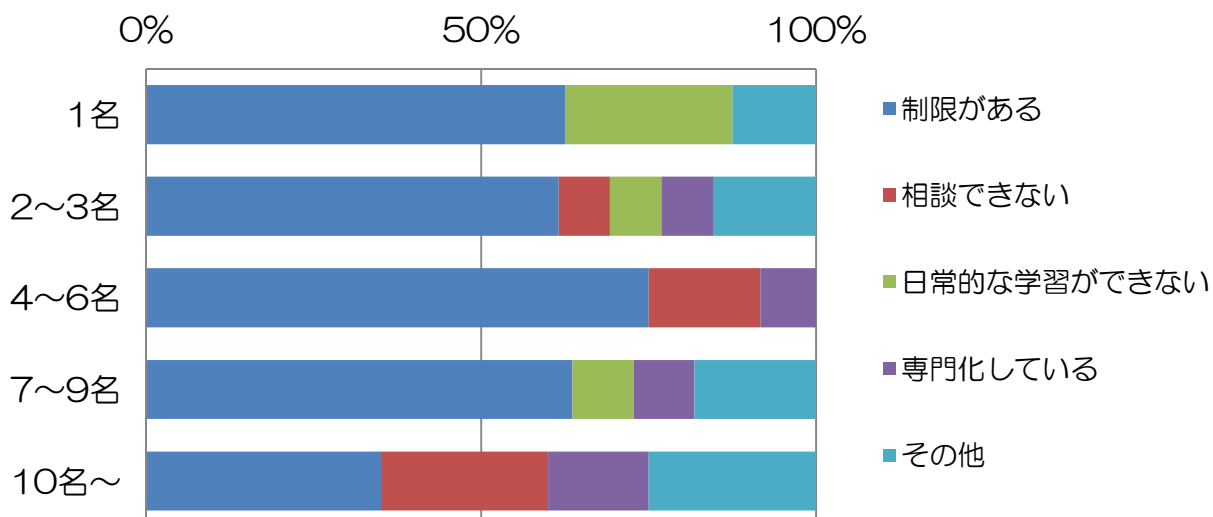
悩んでいる内容	人数	備考
No.1 制限がある	35	金銭的、時間的、距離的、職場環境、育児
No.2 相談できない	8	相談する人がいない、どこから始めればよいかわからない
No.3 日常的な学習ができない	6	動機づけできない、復習できない
No.4 専門化している	6	偏りがちになる、未知の領域に参加しにくい
No.5 その他	10	
No.6		

希望のテーマ	人数	備考
No.1 研修会を多く	2	
No.2 地元開催	2	
No.3 学会・研修会での育児室	1	
No.4 ネットでの講習会	1	
No.5		
No.6		

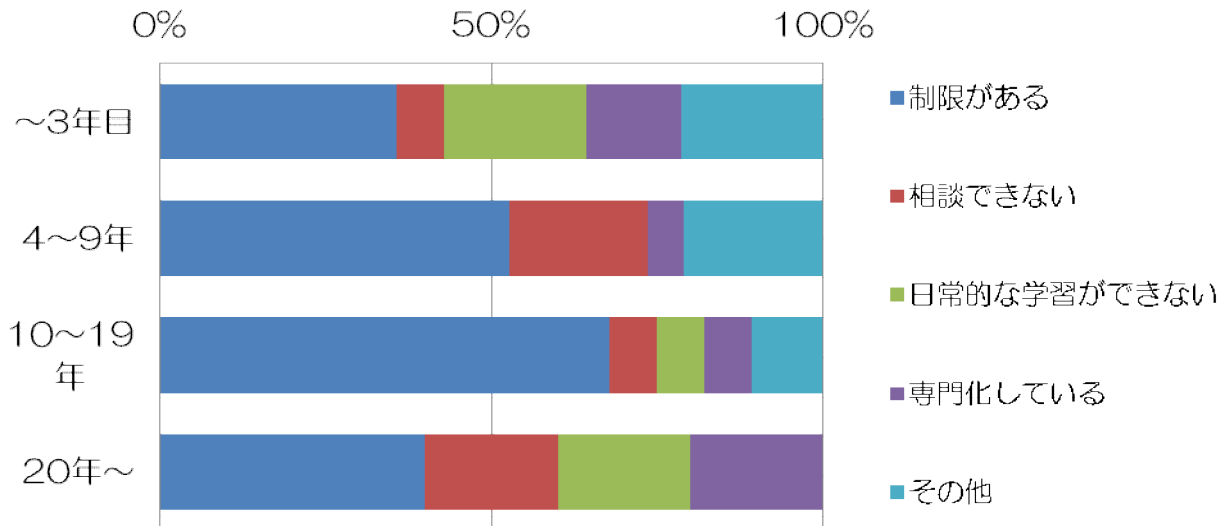
所属別



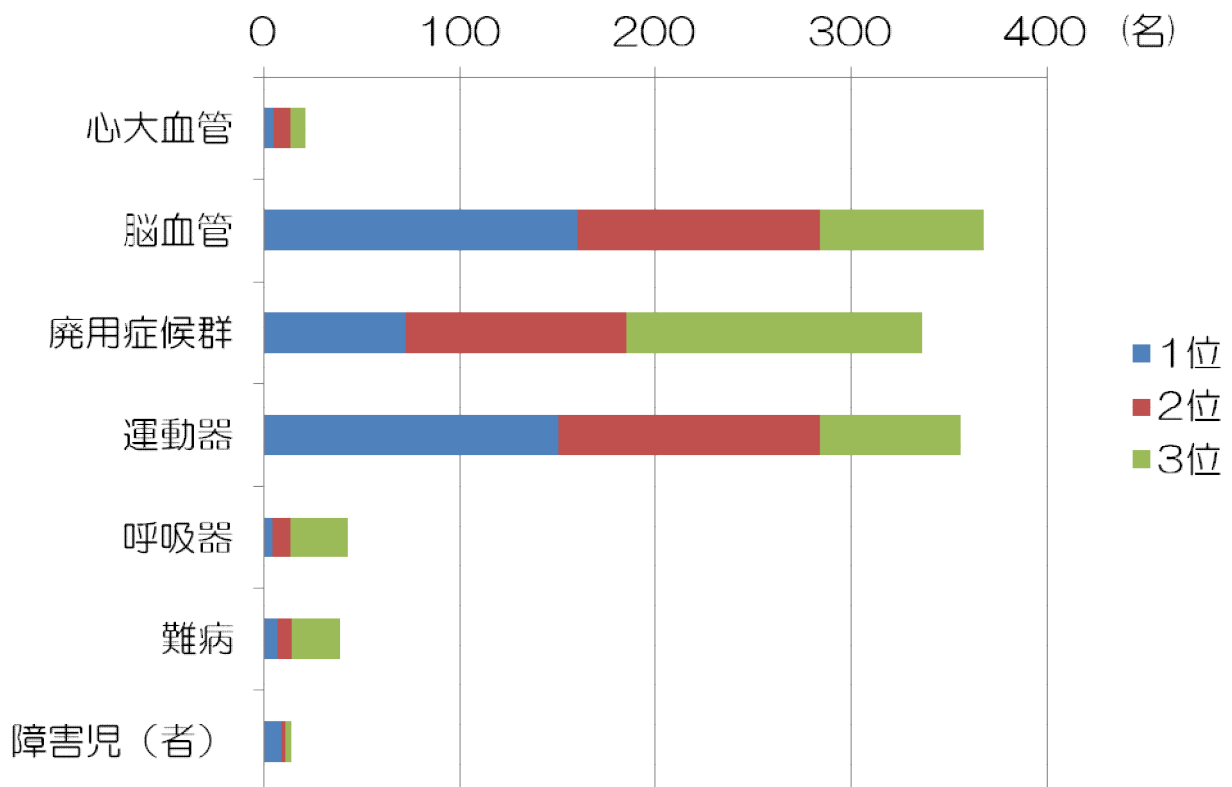
所属人数別



経験年数別



5) 担当する症例数が多い順に番号を記入してください。



<自由記載の分類>

1. 心大血管疾患 回答数19名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 リスク管理	6	
No.2 データ解釈	3	
No.3 予後予測	1	

希望のテーマ	人数	備考
No.1 心リハ	5	
No.2 リスク管理	5	
No.3 連携	1	

2. 脳血管障害 回答数65名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 アプローチ方法	11	筋緊張異常、体幹機能、歩行、装具、訓練量
No.2 評価について	8	筋緊張異常、感覚障害、動作分析、統合と解釈
No.3 生活指導、退院支援	7	
No.4 高次脳機能障害	6	
No.5 心理状況	4	障害受容、依存、動機づけ、固執
No.6 ゴール設定	4	予後予測、目標設定
その他	7	画像診断、算定方法、連携、維持期でのかかわり

希望のテーマ	人数	備考
No.1 解剖学、運動学、脳科学	5	
No.2 装具療法	3	
No.3 運動療法	3	
No.4 予後予測	2	
No.5 動作分析	2	
No.6		

3. 廃用症候群 回答数44名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 アプローチ	28	運動負荷、栄養、活動性、合併症、予防、動機づけ
No.2 少ない介入	9	
No.3 連携	5	

希望のテーマ	人数	備考
No.1 高齢者のリハ	3	筋力向上のエビデンス
No.2 内部障害のリハ	3	透析など
No.3 栄養に関すること	2	NST

4. 運動器疾患 回答数54名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 アプローチについて	6	歩行障害、荷重連鎖
No.2 痛み（シビレ）の治療	5	
No.3 合併症を持つ場合の対応	4	虚弱高齢者、認知症、小児麻痺
No.4 スポーツ	3	
No.5 その他	4	
No.6		

希望のテーマ	人数	備考
No.1 疾患別アプローチ	6	足部、膝、腰部、脊髄損傷
No.2 スポーツ	4	
No.3 痛み	4	
No.4 運動連鎖	3	
No.5 最近の知見について	1	
No.6 研修会自体少ない	1	

5. 呼吸器疾患 回答数16名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 運動療法について	4	患者指導の方法、手技について
No.2 疾患別のリハ内容	3	COPD、肺がん、人工呼吸器
No.3 在宅でのリハ	1	

希望のテーマ	人数	備考
No.1 呼吸リハ	6	触診、排痰
No.2 運動負荷	1	
No.3 画像診断	1	

6. 難病 回答数20名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 疾患別の介入方法	3	
No.2 QOLについて	3	QOL、精神面のフォロー
No.3 患者指導、説明	3	指導説明、コミュニケーション、予後説明
No.4 退院支援	2	環境調整
No.5 経験不足	2	
No.6 その他	1	最新の治療とリハの進め方

希望のテーマ	人数	備考
No.1 疾患別アプローチ	2	パーキンソン病、脊髄小脳変性症
No.2 症例検討がしたい	2	
No.3 在宅支援	2	退院後のフォロー、環境調整

7. 障害児（者） 回答数9名

悩んでいる内容	人数	備考
No.1 知識不足	5	評価、治療、環境設定
No.2 他職種連携	2	移行、他施設状況
No.3 その他	1	依存への対応

希望のテーマ	人数	備考
No.1 専門病院の活動を知りたい		
No.2 理学療法プログラム立案までの考え方を学びたい		
No.3 臨床像を把握できるような勉強会		
No.4 バランスについて知りたい		
No.5 依存への対応		
No.6		

<総括>

全体として、「疾患別のリハ」については困っていることよりも希望のテーマが多かったのに対し、「教育」に関しては希望のテーマよりも困っていることの自由記載が多く、「悩んでいるがその解決策が見つけれられない」という印象を受けました。

「教育」に関しては、体制作りや接し方（引き出し方）といったところがどの施設でも課題となっております。しなしながら、その内容は異なるようです。体制作りに関することでも、人数の多い組織では「マニュアル作りや指導者による違いをどうするか」ということに対して、訪問では「広く体験させるにはどうするか?」「担当症例をどうするか?」などの業務体系による違いも見られました。経験年数では、4年目以降を節目（今回の分類方法にもよりますが）に指導される側との感覚（年齢）の違いや求められる立場、臨床への自信などの変化が起きてくるという印象でした。

これらの意見を考慮し、教育部では接し方や体制作りが課題であると考え、今年度は「コミュニケーション」と「指導の体制・システム作り」に関するテーマの研修会を企画いたしました。

ご意見がありましたら、教育部までお聞かせください。

教育部